



オ リ ー フ 通 信

せいしよの
ことば

勇気を出しなさい。

ヨハネによる福音書16章33節
神愛保育園

「7月になりました」

今年は少し遅めの本格的な梅雨を迎える時期となりました。梅雨時は、子どもが自然と向き合う大切な時期です。晴れた日には、外で泥んこ遊びや水を使った遊びをたくさん楽しめます。雨の日には、お部屋の中で、過ごします。特に幼児になると、明日、明後日までの予定は理解することができます。その予定が、雨によって変更されることは、子どもたちの力、大人たちの力を持って変えることができないことを、子どもが学ぶ機会になるのです。子どもたち自身も、自然と向き合うこととなります。突然暗くなる空、吹き付けてくる強い風、急に激しくなる雨音など、自然は子どもたちにとって不思議なことではいっぱいです。

先日、3歳児ちゅうりっぷ組の日誌を読んでいると、子ども達が「雲」について語っている記事を目にしました。「散歩に行く寸前に雨が降ってきたので、部屋の中で様子を見ていた時、一人が『こっちは黒い雲で、こっちは青い空』という事をみつけ、他の子ども達に伝え、みんなで空を見あげて「本当だ〜」と。」その後、雨が止んだため、隣の公園にでたそうです。その際に、「別の一人が『あっちに真っ黒な雲がいる』と指をさし、その後、風に乗って、黒い雲が近づき、遠くから雷の音がしたため、数名の子ども達がそれに気づきすぐに集まって園に帰ってきた」という場面の記事でした。そして、担任から、子ども達が空の絵本をよく読んでおり、それと同じことが体験できてよかったとコメントがついていました。

特にこの時期にしか体験ができないことを、お友だちと一緒に経験できたことは子ども達の畏れの気持ちよりも、喜びの気持ちでいっぱいだったのではないかと思います。また、絵本でこのようなことをすでに知っていたという事は、ちょっと鼻高々だったかもしれませんね。ちゅうりっぷ組3歳児の「僕たち私たちすごいでしょう！」と感じている一人ずつの顔が浮かんできます。

さて、6月24日にひまわり組4・5歳児が協働して準備を行った夏祭りを開催しました。今年はコロナ禍の中であったため、ちゅうりっぷ組さんだけ参加しました。しかし、ひまわり組さんは、今まで自分たちが乳児のころにもらったことを覚えているかのように、「これはつくし組さん、あっちはたんぽぽさん、これはももさん用」と力を合わせて、水風船(ヨーヨー)をつかって、各クラスにプレゼントに行きました。

「おばけやしき」「UFOキャッチャー」「おりがみ屋さん」「ヨーヨー屋さん」がありました。来年は、コロナも収束して、乳児クラスの子も達も、夏祭りに参加して、一緒に楽しめる行事になればと思っています。

神愛保育園園長

鵜澤由記子

↓ ひまわり組さんの作ったお店の看板のご紹介 ↓





私の好きな絵本



第3回目 担当 たんぼぼ組担任・細貝

私の好きな絵本は『おしっこちょっぴりもれたろう』です。この絵本が好きな理由は、絵本の大きさや絵・文字の可愛さなどの見た目が自分の好みだということと、おしっこを漏らすというだけではなく、簡単そうな内容に見えてよく読んでみると深い話をしているという部分が意外性があって好きになりました。『おしっこちょっぴりもれたろう』を知ったきっかけは、私が大学2年生の頃です。保育実習のために本屋さんで絵本を見ていると一番目立つ絵本コーナーに『おしっこちょっぴりもれたろう』が置いてありました。見た目からして私の好みだったので中をさっそく見てみると「可愛い！」とひとめぼれをして購入したことがきっかけです。そんな『おしっこちょっぴりもれたろう』の絵本の中でもおすすめなページは、【海を見てたそがれているもれたろう】と【もれたろうとおじいちゃんが話しているのを聞いてしまったお母さん】という2つのページです。海のページの理由としては、海でたそがれているもれたろうが言っている言葉が深くてユーモアがあるなど感じるからです。おじいちゃんと話しているページの理由としては、実はおじいちゃんももれたろうだったということと話しているのを聞いたお母さんの何とも言えない表情が好きだからです。

まだ読んでない方も読んでことがある方もこれを機に読んでみていただけたらと思います。私も子どもたちに読み聞かせをして絵本の良さを広めて行けたらと思います。

<絵本のあらすじ>

ぼく、おしっこちょっぴりもれたろう。

おしっこをするまえかしたあとに、ちょっぴりもれちゃうから、いつもお母さんにおこられる。でも、いいじゃないか。ちょっぴりなんだから。ズボンをはいたらわかんないんだから。しばらくするとかわくんだから。でも、ぼくみたくにもれたらうでこまっている人、ほかにもいるんじゃないかな？

子どもの悩みがちょっぴり軽くなる!? ヨシタケシンスケのユーモア絵本。

～EhonNavi より転載～





食事だより

各クラスの食育活動を紹介します！！ それぞれの年齢に適した食育活動を行っています

つくし組 とうもろこし皮むきをお手伝いしてくれました！
皮やひげ、実のでこぼこの感触を楽しんでいました。



たんぼぼ組 収穫したなすを調理室に届けてくれました！ 調理室で茹でてスープに入れて味わいました♪

もも組 スナップエンドウのおひたし、ナムルを目の前で調理しました。作りたての匂いをかいでみたり、新しい食材の名前も覚えました！



ちゅうりっぷ組 納豆サラダを目の前で調理しました！自分のお皿にサラダが盛り付けられるとみんな目をキラキラ☆
たくさんおかわりして食べました。

ひまわり組 親子遠足で掘るはずだったじゃが芋が酒井農園から届きました！！ 年中、年長でそれぞれのクッキングを楽しみました。



年長はフライドポテトを作りました。
包丁は約束を守りながら上手にスムーズに切る事ができました。揚げたてのポテトは最高でした♪

年中はサモサの調理をしました。マッシャーでつぶしたり餃子の皮に包むのもみんな器用でとても上手にできました！



収穫したきゅうりの和え物もつくりました



私の好きなメニュー【その①】 ※職員のお好きな食事のメニューを聞きました！

☆ 町井理恵(ひだまり) 神愛歴 14年 ☆

①おかひじき和え：黒い海藻のひじきのようなものと思ったら、緑黄色野菜でした！シャキシャキの食感が大好きです。スーパーに売っていないので給食でしか食べた事のない味です。(場所によっては売っているようでした)

②油淋鶏ゆーりんちー：から揚げだけでもおいしいのにねぎの入ったタレを絡めてひと手間を加えてくれるなんて、給食さんいつもありがとうございます！！

※レシピは今後まとめてご紹介します



緊急事態宣言が解除されましたが、まだ感染予防には気を配る日々が続いています。夏風邪が気になる季節ですが、全国的に流行しているのはRSウイルス感染症です。秋から冬にかけて流行する疾患ですが、3年前より7月初旬に流行が始まるなど注意が必要となっていました。今年は6月中旬から感染の拡がりをみせ、下旬には警報レベルとなりました。地域でも流行の兆しがあり、園でも罹ったお子さんがいました。症状は風邪との区別がつかない呼吸器症状から始まりますが、高い熱が出るのが特徴です。予防ワクチンもなく、何度も罹患する疾患です。飛沫感染・接触感染が感染経路となるため、こまめな手洗いが必要となります。



【熱中症予防】

コロナウイルスへの感染予防に気を配る日々の中、真夏日の日も増えてきました。熱中症危険情報も出ている季節、熱中症予防には【3つのとる】がポイントになります。

①距離をとる

②マスクをとる

(人との距離が取れている場合、特に屋外などではマスクを取りましょう)

③水分をとる

(マスクの中は多湿となる為、口渇に気付くのが遅れることがあります。時間を決めて水分をとりましょう。)

～夏に流行る皮膚症状～

とびひの増える季節です

とびひは、免疫力がおちるころに多くなります。虫刺されの跡や傷、汗かぶれなどに菌がついて発症することが多いです。「傷がじゅくじゅくしている」というのが始まりで痒みも強いです。このような症状があれば、早目に皮膚科受診をお願いします。とびひの場合には、水遊びはできません。

水いぼ

伝染性軟属腫ウイルスが原因でできる粟粒大のいぼで、おなかや肘、わきの下などにできて拡がります。プールには入れますが、いぼがつぶれて中の液が付くとうつります。いぼがある部分を覆うTシャツなどを着用して水遊びをして頂きます。そのままでも治りますが、痒くてかきこわしてしまうような場合は皮膚科に相談の上、治療をお願いします。



ひだまり

～地域の親子と園児の交流～



梅雨明けも間もなく、本格的な夏のシーズン到来!!

6月24日(木)神愛保育園で夏祭りの日が開催されました。
残念ながらひだまり親子の参加は叶いませんでしたが、
翌日ひまわり組(年中・年長)の子どもたちがひだまりにヨーヨーを
届けてくれました。これからも可能な範囲で園児と利用者の方との
交流を深めていきたいと考えています。



ひだまりで育てている夏野菜の
なすが大きな実をつけました。
早速収穫をして利用者さんにプレゼント
しました!!



福田

オリーブ通信担当からのお知らせ

昨年度まで「我が家の休日」というテーマでご家庭の様子を1年間に数回紹介してきましたが、今年度はクラスごとにテーマを設けて各ご家庭にアンケート形式で記入して頂き、紹介していきたく思います。同じクラスのおともだちがどんなことが好きなのか、興味を持っているのかを知り、「あっ、一緒だ!!」「えっ、OOに興味があるの?」等共感したり、驚いたり楽しんで頂けると嬉しいです。長期化するコロナ禍で、保育園の送迎時に保護者の方同士でお話をする機会も減っている中ですが、おともだちや各ご家庭のことを改めて知るきっかけになればと考えています。

年間予定

- | | | |
|---------|--------|---------------|
| ・ 8月発行 | 年長 | お家でチャレンジしている事 |
| ・ 9月発行 | 年中 | お家によく行く公園 |
| ・ 11月発行 | ちゅういっぶ | 好きな歌 |
| ・ 1月発行 | もも | 好きな絵本 |
| ・ 2月発行 | たんぽぽ | 好きな遊び |
| ・ 3月発行 | つくし | 好きな食べ物 |

発行月の前月(例えば8月発行の年長の場合7月)に保育園からアンケート用紙を配布します。
用紙に記入後、担任までお渡しください。

★ご協力よろしくお願ひいたします★



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2021年 6月 23日(水) 天気 晴れ もも組(2歳児)

ともだちっていいね

今日は小名木川浴いをみんなで散歩をした。散歩先でちょうを見つけたAは、「ちょうちょ！」と言ってはしゃぐ姿を見せ、それを見たBも「本当だ！ちょうちょだ！」と一緒に喜んでいた。散歩から帰ると、BがAに「Aくん、今日散歩楽しかったね！」と話しかける姿が見られていた。

先週くらいから、二人は一緒に遊んだり話をしたりする姿がよく見られていたので、今日も二人が仲良くする姿を見ることができて良かった。大人の手を借りなくても、子どもたちの力で新たな関係性を築いていることを嬉しく思う。

2歳児クラスのお散歩での子ども同士のやり取りの日誌です。2歳児は、自己主張も強くなり、ケンカ(トラブル)も多くなりますが、友だちとのやり取りも増え、一緒にあそぶことやその関わりの中で思いがつながることを喜ぶ姿も多く見られるようになってきます。“同じが嬉しい！”“同じが楽しい！”の時期といえます。Aちゃんがちょうちょに気がつき、その姿を見て同じようにちょうちょを楽しもうとしたBちゃん。もちろんちょうちょ自体にも興味があったと思いますが、“Aちゃんが楽しそう…”ということも、Bちゃんにとっては気持ちの動く要因だったかもしれません。Bちゃんの「今日はたのしかったね！」の言葉は、一見さりげない声かけのようですが、“一緒にあそべてたのしかったよ”“また一緒にあそぼうね”というAちゃんへの気持ちがたくさん入っているもののように感じます。一緒にあそびたいと思えるお友だちがいることは、とても嬉しい関係ですね！まだまだ、思いがすれ違ったりうまく伝えられなかったりして、心地よく関われないことも多くありますが、それぞれの思いを丁寧に受け取りながら、子どもたちの“お友だちと関わりたい”という思いを大切に支えていきたいですね。

2021年6月11日(金) 天気 はれ ちゅうりっぷ組(3歳児)

「このにおいはなんだ～」

今日はお話し会の前にトウモロコシの皮むきを行った。Aはトウモロコシのにおいが「メロンみたい」と茹で上がる前の皮のついたトウモロコシをみて話していた。全員がそろった頃に、トウモロコシの皮むきを行った。

はじめて触るBは、触ることもできずに、CやDの姿を見てから触ってみようとして、少しずつ触り始めていた。E、F、Gは、「ひげがついている」「ここかたい」と自分の力だけではむき切ることができずに保育者も少し手伝ったが、Bは「Bちゃん、一人でやる」と力づくでやり切った。黄色の部分が見えてくると「あと少しだ。頑張るぞ」と皮むきを何本も行ってくれる。「おやつにでるよ」と伝えると、「やったー。私がむいたのがでるのね」と、BやHは(トウモロコシに)興味を持っていたので、食材に触ることは大切だと改めて感じた。

乳児・幼児期はこころや身体の発達はもちろんのこと、五感(味覚・触覚・視覚・嗅覚・聴覚)を育む時でもあります。日誌に記載されているこのトウモロコシの皮むき作業の中に、トウモロコシを見る(視覚)トウモロコシのにおいを知る(嗅覚)、触ってみる(触覚)、おやつで食べる(味覚)を体験することになります。一つの活動の中に、これだけの経験があります。Aが「メロンのにおいみたい」と新鮮なトウモロコシのにおいについて語っていることで、Aが以前に体験したことを記憶しそれをもとに考えている姿がわかります。私たち保育者は、散歩など様々な機会を通して、公園の葉っぱの香り、風の音、空の色の違い、土の手触り、ご飯の炊けるかおり、四季の変化等多くの目に見えるもの、見えないものの体験を子ども達に伝えていく必要を感じています。これらの体験はこれから子どもたちが歩いていく人生において、人生を支える豊かな感性と人間性の基礎になると考えています。

